



Flash News

〈フラッシュニュース〉

三重大学

第28号

目次

- 「国際交流サロン」オープン
- 平成17年度三重大学教育GPの採択結果が公表される
- 「学長と学生との懇談会」が開催される
- 第4回産学官連携会議
- 第1回学長サロン
- 「和歌山大学防災研究教育プロジェクトセミナー」開催される
- 工学部で「四日市市消防本部」との社会連携始まる
- バイオエタノールの新規製造システムの研究開発が採択
- 図書館、津市内の学校図書館支援事業に参加
- 三重地域留学生交流推進会議総会
- 講演会「海を考える」
- 国際環境シンポジウム「四日市学」開催
- 工学部長が選出される

「国際交流サロン」オープン



7月25日、国際交流サロンが附属図書館2階にオープンしたことを記念し、セレモニーが行われました。壁いっぱいには留学生の出身国が表示された大きな世界地図や外国雑誌・新聞等が配置され、インターネット利用や本学に学ぶ外国人留学生、日本人学生及び教職員間のネイティブ言語を介した異文化交流の場として様々なツールが整備されています。学長からは「このサロンが国際化の質を高めるきっかけになってほしい」と挨拶があり、文化交流促進の場としての期待がもたれています。

平成17年度三重大学教育GPの採択結果が公表される

三重大学教育GP事業は、学内のさまざまな創意に溢れ特色ある教育の取組を選定し支援することによって、本学の教育の活性化を図ることを目的としています。特に今年度は、全国的な競争的教育支援事業の数が多くなってきている中で、新たな取組の掘り起こしや、その開始の支援を進め、この事業の裾野を広げることに重点を置きました。全学から12件の応募があり、7月4日にヒアリングが実施され、特色性、組織性、有効性、将来性などの観点から評価を行い、6件の取組 (<http://www.mie-u.ac.jp/gakunai/news/gakunaiGP.htm>) が採択されました。

「学長と学生との懇談会」が開催される

7月5日、三重大学の学生生活全般に関する意見交換をテーマに、豊田学長と学生（参加者：学部生8名、大学院生1名）との懇談会が開かれました。当日は、学長のほか、教育担当、情報・国際交流担当副学長と、財務・経営担当の理事が出席し、ボランティア活動の支援、授業の内容、時間割や履修、カリキュラム、施設の整備などの教育環境や福利関係について、2時間にわたり和やかな懇談が行われました。 (http://campus.abmie-uac.jp/gakumu/web_index/index.html)



第4回産学官連携会議

6月25-26日の2日間、国立京都国際会館において標記会議が開催され、本学からも研究担当副学長、創造開発研究センター長をはじめ、同センターや知的財産統括室、三重TLOのメンバーが参加しました。会議では棚橋泰文科学技術政策担当大臣、尾身幸次元同大臣、他による基調講演・特別講演、4分科会、エキシビション・セッション、産学官連携功労者表彰や交流会など、盛りだくさんの行事を通じて、産学官連携に関する具体的な課題について、研究協議・情報交換が行われました。

第1回学長サロン

7月6日、生協パセオにて豊田学長主催の「学長サロン」が「豊田学長と三重大学の将来を語ろう」と題して開催されました。すでに、教職員向けに「学長メッセージ」 (<http://www.mie-u.ac.jp/gakunai/message/president.htm>) は配信されていますが、学長と教職員とが直にコミュニケーションを深める場として初めて試みたもので、33名の出席がありました。学長の挨拶に始まり、各所でいろいろな話に花が咲き、和やかに終了しました。

「和歌山大学防災研究教育プロジェクトセミナー」開催される

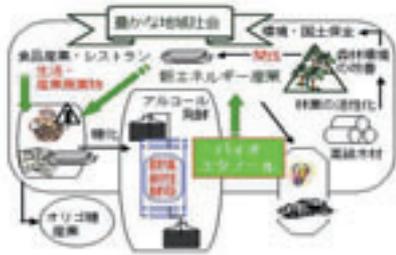
6月16日、本学と包括的連携協定を結んでいる和歌山大学において、同大防災研究教育プロジェクト発足1周年記念セミナーが開催されました。本学の防災関連の取組（災害対策プロジェクト室：川口淳助教授）、三重県の地震対策（三重県防災危機管理局：橋村専門監）について説明があり、和歌山大学の参加者からは、紀伊半島レベルの防災体制の構築などの提案がありました。今後も防災分野で情報交換や連携プロジェクトを推進して行きます。

工学部で「四日市市消防本部」との社会連携始まる

四日市石油コンビナートは建設以来45年余経過し、その防災・安全対策が緊急課題となっています。四日市市消防本部は産官学連携による本課題解決をめざして、三重大学四日市フロントと工学部との連携勉強会（世話人：鈴木泰之教授）を開始しました。6月22日、工学部教員15名が四日市市消防本部、ポートビル、昭和四日市石油㈱を訪問し、コンビナートの現地調査を行いました。今後は事故事例の原因体系化、防災マニュアル化、事故予測と安全診断法、防災機器開発等の共同研究の他、事故原因調査専門家の組織化にも取り組んでいきます。



バイオエタノールの新規製造システムの研究開発が採択



「酸塩耐性酵母を用いたバイオマスの燃料アルコール化の研究開発」が経済産業省の「地域新生コンソーシアム」に採択されました。このプロジェクトは、本学（リーダー：久松真教授・生物資源学部）と民間企業（王子製紙、宮崎本店、敷島スターチ、中央化工機）との連携で、地域の未利用資源を利用し、温室ガス削減効果の高い燃料生産をする資源循環の考えから①廃パン・残飯や間伐材・建築廃材・古紙など多様な資源に対応する糖化装置の開発②雑菌汚染のない強酸性条件下で連続アルコール発酵システムの開発に向けた研究が評価されたものです。

図書館、津市内の学校図書館支援事業に参加

6月24日、平成17年度第1回の学校図書館支援センター委員会（委員長：佐藤義則教授・人文学部）が本学附属図書館で開催されました。これは、学校図書館の活性化支援を目的とした津市教育委員会の「学校図書館資源共有ネットワーク推進事業」によるもので、本学は平成16年度から3年間の予定で参加。今年度事業として、大学での授業の一部の開放や、情報リテラシー支援の講習会の実施を提案し、事業の積極的な支援を行っていくこととなりました。



三重地域留学生交流推進会議総会

三重県内における留学生の円滑な受入れの促進と交流活動の推進を図るとともに、地域住民の国際理解の増進に寄与するための、標記総会（議長：亀岡副学長）が、7月8日に総合研究棟Ⅱ会議室で開催されました。同総会には、文部科学省高等教育局学生支援課専門職の坂本秀敬氏が出席され、今後の留学生の施策等の説明後、①平成16年度事業報告②県内の留学生数及びアンケート調査結果③県内の留学生と地域の交流状況及び奨学金受給状況等の報告があり、さらに、平成17年度事業計画として①ホームページの構築②留学生と地域との交流が審議され、原案どおり採択されました。

講演会「海を考える」

7月17日、標記講演会が三翠ホールにて開催され、市民など、約70人の参加がありました。今回は三重大学・海の博物館連携プロジェクトの一環として、海の博物館長（本学客員教授）石原義剛氏の「海の祭り」、元鳥羽水族館副館長 片岡照男氏の「伊勢湾の海浜植物」及び南山大学教授（本学名誉教授）目崎茂和氏の「絶えの島・鯛島は実存したか」の講演があり、「海の日」を前に、私たちに欠くことのできない海の多様な姿を、わかりやすくご紹介いただきました。

国際環境シンポジウム「四日市学」開催

本学と三重短期大学は、7月23日三翠ホールで「四日市公害を語る、観る、学ぶ、未来へ繋ぐー三重四日市からアジアへ」をテーマに、四日市公害問題の再評価と国際環境協力について第5回国際環境シンポジウム「四日市学」（提案者：上野達彦三重短期大学長）を開催しました。渡邊副学長から「環境ISO取得に取り組む若い研究者らを頼もしく思う」と挨拶があり、韓国法務法人津村顧問・呉志哲氏の基調講演、朴恵淑人文学部教授他の基調報告などに300人余りの出席者は熱心に聞き入っていました。

工学部長が選出される

7月13日の工学部教授会に於いて、工学部長に加藤征三教授が再選されました。任期は9月16日から1年間です。

投稿のお願い

各種事項（大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等）に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。

亀岡孝治 (vpre-info@mie-u.ac.jp) または 井上真理子 (mariko-i@ab.mie-u.ac.jp) まで。場合によっては、取材に向きます。

《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページで (<http://www.mie-u.ac.jp>) ご覧いただけます。》 編集責任者 / 理事・副学長 渡邊悌爾